



令和 5 年度 事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

2023 年度を振り返って

2023 年度はとにかく忙しい 1 年間であり、同時にとても充実した内容の 1 年間だった。

まずは、「**コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2023**」のはじまりのプログラム「**ダンスでいこう！！2023**」。昨年は、札幌、山代温泉（石川）、松山（愛媛）、名古屋、そして舞台制作者を知るオンライントーク。各開催地とも 3 年目を迎え、内容がブラッシュアップされて、各地の参加者の満足度が上がっている。大きな変化として、「ダンスでいこう！！」の最終日の作品発表の後に 2 月の「Enjoy Dance Festival」での上演というステップが出来たことで、年間を通して創り発表する機会が増え、地方を拠点にしている振付家にとって大きな刺激になったと言われました。このようなステップアップが広がってくると全国的に振付家が増える契機になるのではと思います。

「**Enjoy Dance Festival 2023—ダンスを楽しむ 2 日間**」は、“KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD（KCA）を隔年開催にして、KCA と「ダンスでいこう!!」の間を繋ぐ作品発表や交流の場が創れないだろうか？”という問題意識から始まりました。振付家の育成を考えるうえで自身の作品を発表する機会が必要不可欠であり、それが時代とともに減っている現状も気になっていました。。更に世代間格差が広がる中で 20 代—50 代の交流や作品の継承を促すことも必要と考え、2000 年代の名作のリバイバルやゲスト作品を入れました。結果的に 2 日間 2 会場で 4 つのプログラム×4 組上演、計 14 作品（リバイバル作品は 2 回上演）という壮大な内容になりました。各地から集まった若手振付家には、他の作品を必ず観ることなど、上演するだけではなく観ること、交流することにも重点を置きました。

また、「**Choreographers 2023—一次代の振付家によるダンス作品上演&トーク**」は、北九州・松本・松山・新潟の 4 地域で開催。KCA 受賞作品を全国で再演する機会を作ることを始めの目的として始めたこのプログラムは、新しい助成金のおかげで開催を増やすことができました。KCA 受賞作品だけではなく上演地域の振付家や縁のある振付家に関わっていただく仕組みを作り、発表の場＝育成の場になるように各地で様々な工夫を行いました。松本では、長野県に縁のある 2 人の振付家がワークショップを行い作品制作、新潟では韓国のチョン・ヨンドゥさんをナビゲーターに、地元の高校生を中心とした若手ダンサーとのワークショップ+作品制作など。各地で、一緒に協働してくれる制作者や多くの方々に出会い、次に繋がる実りのある公演でした。

震災から 12 年目を迎えた三陸沿岸。「**三陸国際芸術推進事業 2023**」は、文化庁日本博の支援を受け継続することが出来ています。2018 年に三陸国際芸術推進委員会が設立され、三陸沿岸 15 市町村と共に活動を始めてから 6 年目になりますが、芸能をご自分でもされている市町村の担当者もいて、関係性はとても近くなってきました。コロナ時から、事業ごとに担当ディレクターを決め、そのディレクターの所属事務所が各事業の制作を担うという形で、役割分担をしています。そして全体の事務局業務を、2 人のスタッフがフルタイムで担い、盛岡のいわてアートサポートセンター内に事務所を置かせていただいています。打ち合わせはほぼ ZOOM で行っているのですが、京都からは公演の時にしか三陸を訪れることがなくなっています。

2年に一度の7回目となる「**コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール**」。全国から様々な職業の真剣に意欲のある36人が滋賀の山奥の元小学校に集まり、とてもとても集中した、熱い日々でした。これまでの「入門コース」「応用コース」に、「スキルアップコース」「コーディネーターコース」が加わり、より幅広いスキルを学ぶ場になっています。前回より講師が日本人だけになり、各講師もスキルアップしています。

オンライン勉強会では、新井英夫さんのコーディネートで、医療や福祉の関係者に参加していただき、医療、介護とダンスの親和性の話が大変勉強になりました。

コミュニケーション教育事業（小中学校へのダンスアーティスト派遣コーディネート）も、沖縄県、滋賀県、大阪府堺市の小学校に毎年アーティストをコーディネートしていることによって各地との連携した取り組みができるようになっていきます。昨年度は堺市の小中学校の先生を対象に実技講習会をコーディネートしました。20人以上の先生が参加され、中には表現運動を研究し実践指導する先生もいらっしゃいました。そのため、講師のアーティストも参加者になって授業を受け、指導方法に感想を言うという時間もあり、とても意欲的な内容でした。若い世代の先生が多く、自分たちで工夫して様々な仕掛けや声掛けを行われていました。さすがに何年も続けているとこういうことが起きるのだと、明るい気持ちになりました。

2014年にスタートした「**こちかぜ（東風）キッズダンス**」が、なんと10年目を迎えました。子供向けのワークショップで、同じ地域の子供たちとセレノグラフィカのお二人とアシスタントの方々、そしてJCDN神前とのまさに協働事業で、このようなことは全国的にも珍しいと思います。小学1年生だった子供が中学3年生になり、最終回は初めて、アシスタントと同じワークショップのナビゲートにチャレンジしたそうです。10年を節目に今後どうしようと話していましたが、その結果は、なんと、。。ぜひ本文をお読みください。

ほかにも、いろいろなことをやっております。

会員の皆様に支えられて、そして全国の方々と協働して、これだけの事業を実施できていることを誇りに思います。本当にありがとうございます。

ぜひ報告書を読んでいただけましたら、嬉しいです。

2023年度も大変お世話になりました。引き続きよろしくお願いいたします。

2024年6月20日

NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク
佐東範一

目次

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り ————— p.4

・「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2023」

I 新進気鋭の振付家が世界に羽ばたくためのアワード:

「Enjoy Dance Festival 2023ーダンスを楽しむ2日間」

II 全国の劇場とのネットワークによる再演プラットフォーム:

「Choreographers 2023」北九州・松本・松山・新潟公演 ————— p.7

III 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム:

「ダンスでいこう!! 2023」札幌、山代温泉(石川)、松山(愛媛)、名古屋、オンライントーク—— p.11

2. 文化芸術による被災地の復興支援 ————— p.16

・三陸国際芸術推進事業 2023

I 三陸国際芸術祭 2023 移ル

II 三陸のだむら未来芸能祭・のだむら祭生(さいせい)ミーティング

III 三陸芸能彩LINK(文化情報・観光誘発事業)

3. 「すべての人がダンスと出会う」機会を作る、コミュニティダンス

・コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール 2023 ————— p.19

・「こちかぜ(東風)キッズダンス

ー東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2023

・ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめー Community Dance in Japan on web

4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

・文化芸術による子供育成推進事業(コミュニケーション能力向上事業) <NPO 法人提案型> — p.23

・京都府「学校・アート・出会いプロジェクト」

5. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取り組み

・「創造的なダンスによる、子どもはぐくみプロジェクト」

6. その他、講習・政策提言・アドバイザー等 ————— p.29

・2023 年度公共ホール現代ダンス活性化事業 コーディネーター(神前)

・2023 年度(財)地域創造調査研究部門委員(アウトリーチに関する研究調査)(神前)

II. 会員部門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

・JCDN 会員サービス等

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り

「コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業 2023」

<https://choreographers.jcdn.org/2023/>

＜事業主旨＞

コンテンポラリーダンスの振付家が生まれ、育ち、新しい作品が生み出される環境を全国のオーガナイザー（運営団体）と連携しながら形創っていきます。日本のあらゆる場所が起点となり、他の分野や地域の公共団体やホールなどと協働し、未来に向けて、ダンスの今を切り開いていきたいと思います。

1-1.

「Enjoy Dance Festival 2023ーダンスを楽しむ 2 日間」

＜趣旨・内容＞隔年開催のKYOTO CHOREOGRAPHY AWARDをつなぐプログラムとして、2023年度に初めて実施。現在20～30代の若手による作品をメインに、全国から京都に集まるコンテンポラリーダンス作品を2日間で14作品を上演。合わせて、リバイバルやゲストによる名作を紹介。作品を作り始めた若手振付家の上演と研鑽の場となること、多様な振付家の作品の上演や観客を交えたトークにより、自身の作品を客観視し、コンセプトや演出方法を振り返る機会となること、若手振付家が作品を作り自主公演を行うためのサポートの機会とすること、ダンスによる世代間交流、地域間交流、観客との交流の場となることを目指したプログラムです。

＜概要＞

■日程：2024 年 2 月 17 日（土）・18 日（日） A・C プログラム 13:30 開演 / B・D プログラム 17:30 開演

■会場：京都芸術センター フリースペース及び講堂

■共催：京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）「KAC パートナシップ・プログラム 2023」

■料金：劇場鑑賞チケット：各回前売 一般 2,500 円 / U30 2,000 円 / 高校生以下 1,000 円 / 小学生以下 500 円（※当日は 500 円増）／2 公演セット券 一般 4,000 円／U30 3,000 円

■観客数：A プログラム 110 名 / B プログラム 128 名 / C プログラム 128 名 / D プログラム 107 名

■公演内容：

A プログラム 2 月 17 日（土）13:30～ 会場：フリースペース

- ・堀内恵「Lucky wall」（京都）〔公募〕
- ・Alain SINANDJA「KEEP RUNNING」（神戸）〔開催地推薦〕
- ・泰山咲美「Re:Signal Circuit」（松山）〔開催地推薦〕
- ・きたまり「サカリバ」（札幌・京都）〔リバイバル〕
- 出演：さとうまゆ、福島頌子、藤岡美沙、山口なぎさ
- 振付・演出アシスタント：王丸陽可、前川友萌香
- ・トークゲスト：康本雅子（振付家、ダンサー）



B プログラム 2 月 17 日（土）17:30～ 会場：講堂

- ・今井琴美「SET UP」（東京）〔公募〕
- ・土田貴好・小倉藍歌「infinity in finity」（新潟）〔公募〕
- ・鈴木大翔「Bayacy」（名古屋）〔開催地推薦〕



・砂連尾理＋寺田みさこ(じゃれみさ)「男時女時」(東京・京都)〔リバイバル〕

出演:長野里音、関口晴 *上演回によって出演者が異なる。

・トークゲスト:いしいしんじ(作家)



C プログラム／2月18日(日)13:30～ 会場:フリースペース

・藤村港平「PreDanceMusic」(東京・神奈川)〔公募〕

・横谷理香「あやつり あやつられ」(石川)〔開催地推薦〕

・山下残「横浜滞在」(京都)〔ゲスト〕

・きたまり「サカリバ」(札幌・京都)〔リバイバル〕

出演:さとうまゆ、福島頌子、藤岡美沙、山口なぎさ

振付・演出アシスタント:王丸陽可、前川友萌香

・トークゲスト:和田ながら(演出家)



D プログラム／2月18日(日)17:30～ 会場:講堂

・佐々木実紀「エポケー」(東京)〔公募〕

・高橋綾子「Political Spaghetti」(東京・神奈川)〔公募〕

・鈴木明倫・山木将平/ Humming Earth Project「Lagrima」
(札幌)〔開催地推薦〕

・砂連尾理＋寺田みさこ(じゃれみさ)「男時女時」(東京・京都)

〔リバイバル〕 出演:塚本実夢、カナール ミラン波志海

*上演回によって出演者が異なる。

・トークゲスト:山城大督(美術家・映像作家)



■事業の成果:

・振付家育成の観点では、参加した振付家、ダンサーの皆さんから「とても刺激的で学びとなる機会になった」という声を多く耳にしました。実際に、ダンス作品を再演する機会がほとんどない今、一人一人のアーティストが次にステップを踏むきっかけとなったのは間違いありません。特に、開催地推薦で参加した振付家は、自身の活動拠点において仲間が少なく孤立してしまったり、自信が持てない者も多いと思われ、全国区プログラムに取り上げられることで、創作に向かう意欲に火が着いたという人が多く見られました。

・世代間交流の観点では、多くの出演者、観客から約20年前に創作されたゲスト作品やリバイバル作品への共感を得ると同時に、約5日間、同じ劇場で時間を過ごし打ち上げの席を設けることで、世代を超えた交流がいくつも見受けられ、とても良い場になった。特に、京都芸術センターは会場の都合上、出演者の楽屋が大きな部屋ひとつだったことで、出演者同士の物理的な壁がなく話しやすい環境だったのもプラスになりました。



■課題:

・当初計画では、もうひとつの選出方法として、ワークショップ枠を設けていたが、予算上の理由と、選出作品数を絞る必要性から断念しました。次回もし機が熟せば、検討したい。

・「ダンスでいこう!!」からの推薦枠は、いずれも振付家・作品の選出に時間を要しました。そもそも地方都市を拠点に創作する若手がほとんど存在しない現状の中、ゼロから「ダンスでいこう!!」を通して掘り起こしを行っている最中で、年1回の「ダンスでいこう!!」で、いきなり全国に通用する作品を作れるようになるわけではない。今回選出された5組の振付家は、結果として上演の機会を最大限に活用し自身の糧にする姿勢で臨まれたため、再演の機会が彼らの今後の活動の後押しになったことは間違いない。しかし2年後も同じように選出できるかは分からないし、依然として地方都市でダンスを作る人が生まれ育つ環境をどのように継続し定着させていくのか、大きな課題であると感じています。

■参加振付家のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど):

・多くの作品を見ることができたので、自分の作風が数あるダンス作品の中でどのようなポジションに位置していて、この先何を目指して創作して行けば良いのかがとても明確になりました。

・日本全国の様々なスタイルの作品をつくる方々と交流ができたこと、リバイバル作品がプログラムに組み込まれることで先輩方のご意見や想いに触れることができたことが大変有意義でした。日本において振付家という立場があまり確立しておらず、キャリアの構築に悩んでおりましたが、振付家ということに焦点をおいて企画いただき大切なスプリングボードとなりました。

・自分が持っている価値観とは異なる、他者の創造した世界に触れることができ、大きな刺激を受けました。

・いつもとは、違う環境、仲間での稽古は、毎回刺激的でした。いつも新しい発見や、気づきを得ることができて、自分の思考も変化していきました。

・私たちの方法論について改めて考える機会となり、デュオとは何か、またダンスとは何かといった問いを考えることに繋がっていきました。そして、その問いはリバイバル上演が終了した今も続いていて、今回出会った若い4人のダンサーとの関係は引き続き継続し、オンラインを通して我々の振付に対しての研究、その言語化作業を行なっています。



■観客アンケート:

・アフタートークで更に作品のことが深ぼりできました。 ・どの公演もおもしろかった。全く違ってよかった。

・コンテンポラリーダンスを観るのが初めてだったのですが、感じるままに体験するのも面白かったし、演者の実際の動きを見るのも、ステージの余白を考えたりするのも楽しく、またこういったイベントに来たいと思いました。

・今見たいコンテンポラリーダンスの作品がまとめて見ることができてとても有難いです。コンテが改めて面白いと思いました。

・ダンスに詳しくないのですが、色々な方のダンスを見て、コンテンポラリーダンスの幅広さを感じました。またトークイベントでは、皆さんとても雄弁に作品について語られるので感心しました。作品への理解が深まったと思います。

・Festival という名に相応しく、身体だけでなく心まで踊るような素晴らしい公演でした。コンテンポラリーダンスの自由さに今まで以上に心惹かれる1日となりました。ダンスの楽しみ方手帳もとても可愛く素敵でした。

1-2. 全国の劇場とのネットワークによる再演プラットフォーム:

「Choreographers 2023」

＜趣旨＞「Choreographers」は、振付家に光をあて、社会に対して発信すること。振付家、そしてダンス作品の価値や社会的意義を積極的に打ち出し、新しいダンスの観客を開拓すること。作品を再演する機会が増えることによって、作品が成長すること。これらを目的に行う公演&トークのプログラムです。2021年から全国の劇場と連携し、ダンス作品を再演する機会を継続的に形作ること、各地のダンス状況をリサーチし、トークと合わせて各地のダンスの刺激剤となる場を目指して開催しています。参加振付家・作品は、「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD (KCA)2022、2020」の受賞者、ファイナリストから紹介する他に、上演地域周辺で活動する振付家や、上演地域で出演者を公募して創作する作品などを紹介します。

2023年度は北九州と松本、松山、新潟の4地域で開催しました。

北九州公演

■日程:2023年11月26日(日) 14:00 開演

■会場:J:COM 北九州芸術劇場 小劇場

■共催:(公財)北九州市芸術文化振興財団、北九州市

■振付家・上演作品:Aokid×たくみちゃん「HUMAN/human」*KCA2022 黄金 4422AIR 賞ノ
京都賞ノ岡田玲奈・黒田勇/Null「Own Own」*KCA2022 奨励賞

◎公演前プレトーク:「社会とコンテンポラリーダンス作品との関係!？」

石井達朗(舞踊評論家)×吉田純子(朝日新聞社 編集委員)

◎アフタートーク:「そのダンス、どうやって作ったの?」

Aokid×たくみちゃん+大森瑤子+岡田玲奈・黒田勇ノ聞き手 康本雅子

■料金:前売 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円(※当日は 500 円増) ■観客数:85 人

■制作・運営:JCDN、(公財)北九州市芸術文化振興財団、韓ヨルム



■参加振付家・出演者のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど):

・再演するという経験があまりなかったので、京都での公演も含めると3回目となり、場所も変えながらどのような対応力が作品自体に内包されているかも含めて、やりながら知っていくいい機会になりました。



■観客アンケート:

- ・どれもよくわからなかったが、動きの面白さに見とれました。
- ・プレトーク、アフタートークがある公演ははじめてだったのですが、とても良かったです。
- ・ダンスの経験がないので、コンテンポラリーダンスというものも予備知識がなく鑑賞しましたが、とても楽しい時間でした。3組それぞれ個性が全く違い、ダンスというもののイメージが変わりましたし、自由だからこそ奥深いなと思いました。
- ・息遣いを感じられる程間近で演技を観られたのがとても素晴らしかった。ダンス作者の話を聴けて、振付家の皆様

のことばと身体のそれぞれの表現方法の違いが印象深かったです。

- ・SNS 等で劇場が宣伝に力を入れているように見受けましたが、ここでも、コンテンポラリーダンス、未知の芸術への敷居の高さの存在を感じました。
- ・表情や身体の動き、動線で説明がなくても理解できる事がグッと心に直接伝わってきました。

松本公演

■日程: 2023 年 12 月 7・8 日(木・金) 19:00 開演 プレートーク(18:00~18:45)

■会場: まつもと市民芸術館 小ホール

■振付家・上演作品: 池ヶ谷奏・藤村港平「対象 a」*KCA2022 京都賞／

井田亜彩実「ですばれーと行進曲」／二瓶野枝「かれらの森 short ver.」／

横山彰乃「Zuku-Zuku-Zuku」*KCA2020 奨励賞

◎公演前プレートーク:「信州からコンテンポラリーダンスを語る！」

藤澤智徳(信州アーツカウンシルコーディネーター)×分藤香(にちカラファシリテーター/制作者)

日替わりゲスト: 吉川千恵(7 日)、黒岩力也(8 日)

◎関連企画(YouTube 配信):「振付家3組のスペシャルトーク」11 月 18 日(土)19:30~

■料金: 前売 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円(※当日は 500 円増) ■観客数: 205 人

■制作・運営: JCDN、韓ヨルム 現地制作: 分藤香



■参加振付家・出演者のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど):

- ・振付家が作品や振付について話してくれたこともあり、今までの自分の人生を違う視点で見つめることができたり、自分はどうか生きていきたいのかを考えたりと、「上手に踊る」とは違う表現の深さを学んだ気がします。
- ・経験の有無に関わらず、クリエイション次第で、それぞれのよさで輝くことのできるコンテンポラリーダンスを私は改めて好きになりました。あまり枠にとらわれずに色々な可能性を探って行きたいなと改めて感じました。
- ・振付家、出演者が互いに初対面のなか、共有するところ、尊重するところの加減が参考になりました。
- ・身体のならし方から振付・構成の考え方が自分とは違ってとても勉強になりました。また、ダンサー一人一人の振付に対する自分の気持ちや表現の仕方についても三者三様で勉強になりました。



■観客アンケート:

- ・一人一人のダンサーが輝いていてよかった。振付家の個性がそれぞれ光っていて楽しかったです。
- ・素晴らしい公演をありがとうございました。4 作品、それぞれに込められた思いがとても伝わってきました。本当に感動しました。
- ・今年、長野に引越して初めてダンス作品を見ました。コンテンポラリーダンス、長野でもっと見られるといいな！
- ・とっても新鮮で、どの作品からも言葉では伝わらない不思議な感覚にびっくりでした。
- ・からだを使った演者とお客さんとのコミュニケーションがすばらしかった。
- ・振付・演出・表現者の違いでこれほど多様な表現があるとは思いませんでした。

松山公演

■日程: 2023 年 12 月 21 日(木) 19:00 開演 プレートーク(18:00~18:45)

■会場: 松山市民会館 中ホール

■振付家・上演作品: 大森瑤子「Help」*KCA2022 京都賞／赤松美智代・丸山陽子／
赤丸急上昇「廻-Shirushika」／星加昌紀・高橋砂織/ honeysuckle「そっとして、
はっとして」

◎公演前プレートーク:「日本と松山のダンスのこれからを語る！」東野祥子(振付家・
ダンサー)×鈴木ユキオ(振付家・ダンサー)

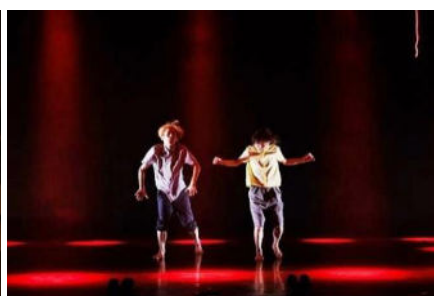
■料金: 前売 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円(※当日は 500 円増) ■観客数: 170 人

■制作・運営: JCDN、韓ヨルム 松山公演制作: (有)オフィスモガ



■参加振付家・出演者のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど):

- ・再演にはそれまで少し苦手意識を持っていましたが、再演を重ねることで見えてくるものが全然違い、自分にとっても勉強になりました。
- ・自身の身体の使い方への新たな方向性が見つかったり、今までの作品制作への向き合い方の変化が感じられた。
- ・他の出演者とも交流できた時間がとてもありがたく、今後の活動の刺激も得られました。
- ・ファシリテーターや観客からのフィードバックを通じて、自分の作品の客観的な見え方について改めて知ることができました。
- ・自身の考えを言語化することで、自分が何を大事に創作しているかを再確認し、整理する機会となりました。



■観客アンケート:

- ・ダンス観るのもやるのも話を聴くのも大好きなので、今後ダンスに関する公演を松山でもたくさんしてほしい。特に県外のアーティストが来てくれたらうれしいです。
- ・昔の映画館の 2 本立て、3 本立てのようで、いろんな作品が見られるのは面白くてとても良かった。
- ・最後にそれぞれの作り手の話が聞けてよかった。3 作品とも雰囲気違って面白い公演でした。
- ・もう高齢で自分で動く事はできないが、観るのは楽しいので、これからも新しいダンスを見せて頂きたいし、もっと広めてほしい。
- ・プレートークでは、人生の経験やダンスの事など色々な話が聞けてよかったなと思いました。ダンスの事についてはまた新しい事が知れて良かったです。
- ・普段、高校生などのダンスを見ていて、学生のダンスは 4 分間の作品しか見たことがなかったので、この長い作品で最後まで途切れることなく続けられるダンスを見て、新しい感覚を味わうことができました。



新潟公演

■日程: 2024 年 1 月 8 日(月祝) 19:00 開演 プレートーク(18:00~18:45)

■会場: 新潟市音楽文化会館

■振付家・上演作品: 池ヶ谷奏、藤村港平「対象 a」*KCA2020 京都賞/女屋理音

「エピセンター」*KCA2022 ファイナリスト/Jung Young Doo(チョン・ヨンドウ)「三つの
フーガと一つのプレリユード」*新潟在住の 10-20 代のダンサーと共に作品制作

◎公演前プレートーク:「こんなものまでダンスなの!? 秘蔵映像と最新情報で語るコンテ
ンポラリーダンス徹底ガイド」乗越たかお(作家・やさぐれ舞 踊評論家)

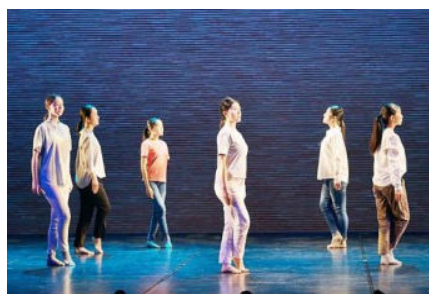
■料金: 前売 3,000 円、U25・障がい者 2,000 円、高校生以下 1,000 円(※当日は
500 円増) ■観客数: 118 人

■制作・運営: JCDN、韓ヨルム 新潟公演制作: 山下佳蓮



■参加振付家・出演者のアンケートより(Q 参加して得たこと、感じたことなど):

- ・プロの方がどのように振付を作り、構成しているのか間近で知ることができました。呼吸と連動する身体の使い方、リズムなどを感じ取ることができました。
- ・違う環境で踊ってきた他のメンバーとの意見交換や踊りを共有することで、自分にはなかった発想に出会うことができました。
- ・こうした出会い・交流ができる機会を今後もどんどん作っていただきたいです。そして、経験できたこと・得られたことを県内在住の我々がどう火を絶やさずに続けていけるのか、考えて行かなければと強く思いました。
- ・部活ではとにかく揃えることを重要視するのですが、今回のプログラムではアドリブやソロがたくさんあったので、即興する力がとてもついたと思います。



■観客アンケート:

- ・震災があっても公演を中止しないでいただき、ありがとうございます。芸術をとめないでいただきたい。
- ・ダンスにとっても馴染みのない生活をしていますが、声も動作もダンスなのかもと思え、ダンスが今後身近に感じられると思いました。
- ・プレートークの内容と上演作品がリンクして、身体表現の奥深さを見つめ直すよい機会となりました。
- ・無事に公演が実施され、観に来ることができて良かったです。どの作品もなかなか新潟で観る機会がないものだったので興味深かったです。
- ・プレートークの内容と上演作品がリンクして、身体表現の奥深さを見つめ直すよい機会となりました。テクニックの有無ではなく、人の存在そのものがダンスにつながると思うと、私たちの生活はダンスと密接につながっているし、もっと気楽に広く楽しめると思いました。
- ・ダンサーが伝えたいものはこちら側が感じるものは違うかもしれませんが、何かが伝わり心に感じたように思いました。

1-3. 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム：「ダンスでいこう！！2023」

＜趣旨＞ダンス作品を創り始めた人やこれから創ろうとする人を対象に、各地域のオーガナイザーがその地域に適した育成プログラム（ワークショップ、トーク、公演など）を考案・実施します。他に、コンテンポラリーダンスの創造環境全体の向上に寄与する人材を育成するプログラムも実施します。

札幌プラットフォーム『ダンスに没頭する四日間 2023』

運営：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会（報告：森嶋拓）

■趣旨・内容：ダンス、振付、歴史、バレエ、創作、舞踏、即興、市場分析、自己分析、研究。朝から晩まで、様々な要素の踊りに没頭し続ける四日間。1コマの時間を90分程度に設定し、講師達が入れ替わりで実技から座学まで様々な講義を行った。また、フィードバックやディスカッションの時間を多く設け、対話を行いながら講義を進めた。

■日程：2023年8月3日（木）13～21時/4日（金）10～21時/
5日（土）10～21時/6日（日）10～15時

■会場：CONTE-SAPPORO Dance Center, Sōla Art-Retreat

■参加者：大学生2名／社会人9名（芸術関係5人、その他4人）／小学生1名 計12名

■事業の成果：日に日に受講者の集中力の高まりと、感覚・感性が開いていくさまを肌で感じました。自己を俯瞰して見つめることで、それぞれの目指すアーティスト像への進路が明確になり、日々の研鑽に戻った際に以前よりも高い意識をもって臨めるのではないかと思います。

■課題：個人はスムーズに集まったのですが、グループでの応募がありませんでした。ニーズをもう少し調査し、それに併せて内容も精査する必要があると考えます。パッケージとしてほぼ完成されているので、全体のバランスを維持したうえでどのように変化、更新していくかが課題。



■参加者の声：

・「からだもこころもあたまも、全てが“これを待ってました！””というように、ぎゅんぎゅん水を吸い込むスポンジのように潤った幸せな時間でした。

・「これもありなんだ」、「自分の好きに従っていいんだ」と頭が柔らかくなった感覚がしました。この感覚は本当に初めてで、自分の中でダンスと向き合っている方向が前向きに変わった瞬間でもありました。

■**実施後の効果**: 今回の受講者が自主的に集まり、受講者だけで公演を行うことを企画しています。こちら側が与える一方ではなく、自分たち自らが行動していく様子を見て、非常に嬉しく思っています。実現した際には広報面などで協力できればと考えています。

松山プラットフォーム『カラダで TRY ANGLE』

運営:(有)オフィスモガ (報告:オフィスモガ)

■**趣旨・内容**:〈体験する〉〈創る〉〈観る〉の3つ視点を持ち、①振付家のダンス作品に出演することで、「振付」を学ぶプログラム、②愛媛県内を対象に、大学ダンス部やダンススタジオなどでダンサーとしての経験を重ねて来た人が、創作のステップに踏み出すためのプログラム、③県外の振付家を対象に自身の地元以外での作品の再演の場を提供、の3つのプログラムと、成果発表日に「ダンスを語る場」を設けました。①の振付家は、鈴木ユキオさん。②と③は、1組ずつ公募で決定して実施しました。

■**日程**: オーディション WS 8/26(土) クリエーションワークショップ 1週間
成果発表公演「鈴木ユキオ作品・公募作品 A.B の上演」「ダンスを語る場」9月23日(土)17:00~18:30/24日(日)14:00~15:30

■**会場**: ダンススタジオ MOGA

■**成果上演参加者**: 9人 ■**オーディション WS 参加者数** 18人 ■**観客数**: 61人

■**事業の成果**: ①には大学ダンス部の参加者が多数参加しました。企画後、自身の大学でのダンス活動の創作に大きな変化をもたらしています。県外・大学生・一般とあらゆる世代が一つの公演に関わることで、お互いの価値観に広がりや深まりが増えたように思われます。

■**課題**: 作品を公募しても、振付家からの応募がなかなかなかった。要因として、振付家の「創る環境」が整っていないことが考えられる。「創る」という事を成立させるには、作品をつくりやすい環境(時間・場所・使用料の負担が少ないなど)が必要です。また、長期的に稽古できる時間と空間を提供できるように、支援体制を作っていくことが必要だと思われます。

■**参加者の声**:

- ・9日間、毎日新しいことを吸収し、自分なりに理解してやってみては何か違って、迷走している時間もありましたが、動きとなって出せた時はピンツと来るものがあって、それが続き、少しずつ自信ができました。
- ・プログラムの中で特に良かったのは、2度に亘るクリティカルレスポンスを経験できたことです。製作途中の作品を人に見せるということはとてもナーヴアスなことです、このシステムであれば「作品をより良くするための場」であることが前提に置かれるので、不安がかなり軽減されました。
- ・初演にやりきれなかったものを拾い上げ精度を上げるという点で、再演する機会は創作を重ねていく上での救いになると思います。
- ・ファシリテーターや観客からのフィードバックを通じて、自分の作品の客観的な見え方を改めて知ることができました。さらに自身の考えを言語化することで、自分が何を大事に創作しているかを再確認し、整理する機会となりました。



石川・山代温泉プラットフォーム

『空間感覚で広がる演出・振付の世界 2023』

講座【VISION】、滞在制作・公演【VISION+】

運営：山田企画（報告：山田洋平）

講座【VISION】 ■日程：2023 年 8 月 29 日、30 日 ■会場：山代温泉 専光寺

■講師：山田洋平（舞台芸術家）、杉浦充（舞台美術家）、茂木宏文（作曲家）、島貴之（演出家）、北川里沙（デザイナー）、佐竹宏平（思想家）、寺西望（教育者）

■趣旨・内容：ダンスそれ自体への追求ではなく、ダンスが存在するための諸条件（空間・美術・建築・伝統・身体・音楽・企画など）を鑑みる事に重点を置いたプログラム。振付家自身が所属している文化・環境を認識し、振付・舞踊の価値観を再構成する機会を設ける事を趣旨とした。振付家の視野と関係者を広げ、ダンス業界に留まらない広い社会との関わりの中で切磋琢磨し、劇場の内外両方での可能性を拓いていける人材を育成する。

滞在制作・公演【VISION+】

■日程：2023 年 11 月 11 日、12 日（計 3 回公演）

■会場：山代温泉 専光寺 ■観客数：84 人

■参加者・上演作品：大月侑『ココカラダ』／宮悠介『かたち』／森田愛美『Dependent Co-Arising』／横谷理香『あやつり あやつられ』

■趣旨・内容：講座【VISION】から選出された 4 名の振付家が山代温泉で滞在制作を行った。また、創作環境において舞台美術や音楽性、演出に対する適切なフィードバックを行うための中間発表を行ったほか、創作と上演、観客の動きなどに対する理解を深めるためにファシリテーターを本番期間中に置いて作品の上演に臨んだ。

■事業の成果：

・講座【VISION】

ダンス界に留まらない包括的な活動を行える振付家を育成するために様々な専門分野を持つ講師たちがそれぞれの分野の現状や創作意識、方向性を語った。インプットだけではなく積極的にアウトプットしていくプログラム（ワールド・カフェ、創作交流会）も入れ込み、振付家としてのビジョンが明確になるように方向づけた。

・滞在制作・公演【VISION+】

照明・音響との打ち合わせ、本番舞台でのリハーサル時間を多く取り、空間への理解、観客へのアプローチ、上演する他の作品との連動・連携などを主体的に考えられるように促し、作品が置かれる環境、届ける相手へのビジョンを持てるように方向づけた。

■課題：

自己完結的な作品創作（例えば自作自演）にとどまることなく、他者との関係の中で客観的に作品性を理解し、協働しながら他者に振付けられるような、プログラムの位置づけを検討したい。



■参加者の声:

- ・ダンススキルでの優劣や先入観なしで互いを見つめ合い、価値を認め合いながら学び話す時間が有意義でした。
- ・年代問わず多種多様な経験、考えを持った様々な表現者が集まり、表現とは人生とは何かをひたすら深く考える2日間だった。
- ・自分が今立っているところと、たくさんの方々との共感と比較を通して、以前より足場が少し固まったような感じです。
- ・作品を創って、発表して、評価を受ける、というサイクルの中で、評価を気にしすぎるあまりに、作品にしたい本当の想い＝本心の部分が自分でも見えなくなっていたことに気づきました。
- ・お寺での公演を初めて経験し、普段立っている“劇場”が、いかに守られた空間であるかを再認識しました。

名古屋プラットフォーム『レジデンスアーティスト育成事業 2023』

運営:ダンスハウス黄金 4422 (報告:ダンスハウス黄金)

■趣旨・内容:本事業は、日本を活動拠点とする若手振付家を育成すること、愛知県内のダンサーや振付家にも質の高い育成プログラムを提供することを目的としている。1組を KCA2022 から選出し、2組のレジデンスアーティスト(振付家)を公募で選出後、14日間に渡り、ダンスハウス黄金 4422 にて選出されたダンサーによる作品の滞在制作を行い、最終日に成果発表を行った。また、滞在期間中に、舞台芸術に関わる様々な知識を習得してもらう為の照明講座・音響講座・制作講座(1講座3時間)を実施した。

■レジデンスアーティスト・作品:

- A. Aokid×たくみちゃん振付作品「Golden Ah」 ※愛知県内の小中学生を募り、6名が参加
滞在期間:7月29日(土)～8月11日(金)
- B. 安堂佑希人振付作品「あなたがそうして、わたしは」 ※公募で地元のダンサーを募り、2名が参加。
- C. 大橋武司振付作品「YADORU」 ※公募で地元のダンサーを募り、4名が参加。
滞在期間:8月28日(月)～9月10日(日)

■講座のみの参加者:17人(育成対象者以外)

■成果発表公演入場者:20人

■事業の成果:Aokid×たくみちゃんはダンスハウス黄金 4422 の全館を使って回遊型の新作(約1時間)とインスタレーションを発表し、安堂佑希人と大橋武司はそれぞれ25分間の新作を成果発表した。

■課題:愛知県内のダンスコミュニティは、主に学生や仕事を持つ人々から構成されており、その多くが時間的制約を抱えている。このため、2週間のクリエイション期間を設けていましたが、実際にはクリエイションの時間が十分に取ることができなかった。ダンサーや振付家が日常生活とダンス活動を両立させる難しさが影響しており、十分な時間を割くことが難しい状況だ。さらに、振付家として活動している人材に限られており、地方で活動する振付家やダンサーに合わせた内容のプログラムを提供することが必要だと考えられる。地域の特性に合致したプログラムを提供することで、参加者のニーズに応え、地域のダンスコミュニティをサポートする役割が求められている。

■参加振付家の声(アンケートより):運営側からの提案で小中学生と作品制作することによって、アウトリーチ等、今度の活動の可能性が広がったという感想が聞かれた。また、この経験を通じて、制作、音響、照明に関する知識



の獲得、そして照明音響スタッフとのコミュニケーションについての学びができたことにより、振付家としての知識やスキルが向上したとの感想を複数の方からいただいた。一方で、複数人参加による制作費の厳しさが指摘され、予算組みの幅を広げる必要性が示唆された。



舞台制作者を知るオンライントーク『私がこの仕事を選んだ理由』

運営：宮久保真紀、JCDN

振付家を支える「舞台制作」の仕事と魅力を伝えるオンライントーク。現在、20代～40代の活躍中の制作者を話し手に招き、それぞれがこの仕事についての動機や続けている理由などを語っていただくことで、これから舞台制作を目指す若い方々の参考となる場を目指した。

■日程：2023年9月1日～10月30日 各回 19:00～20:30 / オンライン（計7回のトーク、各回約60分＋質疑応答）

■話し手：松本千鶴、児島美穂、田中幸恵、山田洋平、武田侑子、藤澤智徳、森 真理子

■インタビュアー：宮久保真紀、神前沙織

■対象：大学生、高校生を中心に20～30代前半、及び舞台制作に関心のある方。

■参加人数：通し券 一般10人、学生19人 / 一回券 一般21人、学生7人 / JCDN会員3人 / 関係者等13人

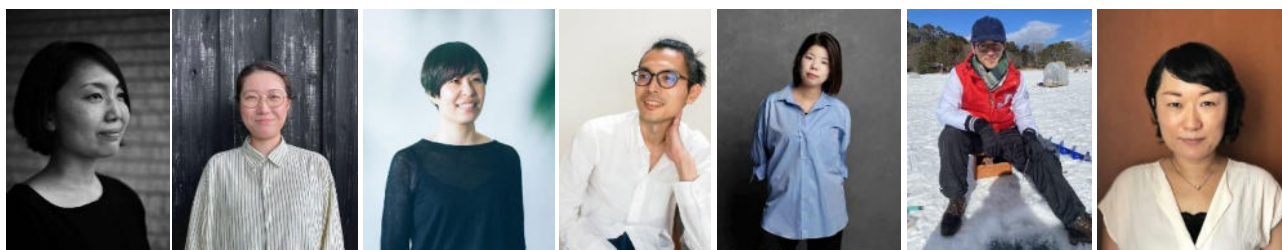
■事業の成果：前年度同様、全国からの申込みがあり、舞台制作への関心の高さを実感した。また、制作の仕事をしているきっかけや続けている理由は人により異なるので、その幅広さを知って自分に合った現場を探すきっかけにってもらうことができた。

■課題：アーカイブ視聴も含めて購入される方が多く、リアルタイム参加者が少ない点

■参加者の声：・舞台制作に関わられている方々の様々な経緯や想いを知ることができ、視野が広がりました。

・トークゲスト7人の方々の仕事に就いた経緯や興味なども、皆さん大きく違ったり、また重なることがあったりで、ノウハウも様々なのだなあと面白いです。

・今回の講義を通して、普段は隠れている制作さんの裏側を知ることができました。



松本千鶴さん

児島美穂さん

田中幸恵さん

山田洋平さん

武田侑子さん

藤澤智徳さん

森真理子さん

■担当：神前、佐東

■「ダンスでいこう」「Enjoy Dance Festival」―文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（次代の文化を創造する新進芸術家育成事業）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会 2830万円

■「Choreographers」-文化庁文化芸術振興費補助金統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2） | 独立行政法人日本芸術文化振興会 19,076,917円 合計 47,376,917円

2. 文化芸術による被災地の復興支援

三陸国際芸術推進事業 2023 <https://sanrikuarts.com/>

三陸国際芸術祭 2023 移ル

1 三陸芸能大発見サミット(三陸芸能見本市(ショーケース)事業)

三陸沿岸地域の郷土芸能14団体と、インドネシアから招へいた1団体が2日目にわたり野外で演舞等を披露する郷土芸能鑑賞会(公演)を開催。また、国際交流事業として、インドネシアの芸能団体と地元の小学生、芸能団体の交流会や一般公募による交流イベント等を実施。

(1). 三陸芸能大発見サミット(公演)

国内外の芸能の披露に加え、団体間のトークセッションなどを開催。初日は篝火の中開催し、2日目は、大船渡市産業まつりなどの食イベントと併催した。

開催日: 2023年10月7日(土)・8日(日)

開催場所: 須崎川親水広場(大船渡市)

参加芸能団体: 三陸14団体、インドネシア1団体

赤磯太鼓-ARATA-(陸前高田市)、野田村大黒舞の会(野田村)、両石虎舞保存会(釜石市)、中野七頭舞保存会(岩泉町)、白銀四頭権現神楽保存会(八戸市)、鶴鳥神楽保存会(普代村)、臼澤鹿子踊保存会(大槌町)、Miroto Dance Company(インドネシア)、10月8日(日) 花輪鹿子踊り保存会(宮古市)、大沢虎舞保存会(山田町)、平内鶏舞組(階上町)、瀧澤鶏舞保存会(洋野町)、大宮神楽保存会(田野畑村)、仰山流笹崎鹿踊保存会(大船渡市)、行山流山口派柿内沢鹿踊保存会(住田町)

出演者数: 202名 **来場者数:** 2,409名



(2). インドネシア団体との国際交流

地元大船渡市内の小学生及び市民を対象とし、芸能団体とインドネシア団体が互いの芸能を習いあい、意見交換等を行う交流会を実施。

開催日: 2023年10月5日(木) 11:15~12:10 / 18:30~21:00

開催場所: 大船渡市立大船渡小学校、仰山流笹崎鹿踊保存会伝承館

参加者数: 53名



(3). インドネシアの舞踊を踊ろう! in 気仙丸

大船渡市中心部に常設された、震災の記憶を後世に伝える「気仙丸」の場所で、インドネシアの芸能を習い、成果発表するワークショップを開催。

開催日: 2023年10月9日(日祝) 13:30~12:00

開催場所: 千石船「気仙丸」前

参加者数: 14名

来場者数: 74名



2 三陸のだむら未来芸能祭・のだむら祭生(さいせい)ミーティング

三陸沿岸の若い芸能継承者を対象とし、まちづくり関係者やプロの芸能者等との交流や対話によって地域の未来を考えるミーティングと、野外公園において様々な次世代芸能者がそれぞれの郷土の文化に彩られた芸能祭を開催。

(1). のだむら祭生ミーティング

①ワークショップ: 地元野田村内の中学生を対象として、プロの太鼓奏者による太鼓ワークショップを実施。

展示期間: 2023年9月23日(土) 13:00~14:45

開催場所: 野田村立中学校体育館

参加者数: 54名



②のだむら祭生ミーティング

次世代芸能者に向けて、鼓童文化財団菅野敦司氏やアーティスト柴田智之氏の講座と、久慈工業高等学校料理部による地産地消の「野田村パエリア」を試食しながら交流するミーティングを実施。

開催日: 2023年9月23日(土) 16:00~18:30

開催場所: 庵日形井(南部曲がり家)

来場者数: 64名

(2). 三陸のだむら未来芸能祭

開催日: 2023年9月24日(日) 13:00~15:45

開催場所: 十府ヶ浦公園 多目的イベント広場

出演者数: 97名

来場者数: 463名



3 三陸芸能彩LINK (文化情報・観光誘発事業)

三陸地域の関係人口拡大・地域の活性化を目指し、三陸沿岸の芸能催事を日英2か国語でPRし、催事に合わせ地域の文化・観光資源とともに周遊プログラムを提案する。

(1). 情報発信(芸能催事発信と広報媒体制作)

①三陸沿岸の芸能催事を本芸術祭WEBサイトにて日英2か国語で発信。

期間: 2023年10月~2024年3月

掲載件数: 10件

- ・大槌まつり(大槌町) 出演者数: 1,400名 来場者数: 16,435名
- ・ふだいまつり(普代村) 出演者数: 22名 来場者数: 300名
- ・大船渡市民俗芸能継承フェスティバルPart1(大船渡市) 出演者数: 140名 来場者数: 600名
- ・岩泉町郷土芸能祭(岩泉町) 出演者数: 100名 来場者数: 100名
- ・小正月行事(野田村) 出演者数: 25名 来場者数: 150名
- ・釜石市郷土芸能祭(釜石市) 出演者数: 242名 来場者数: 700名
- ・八戸えんぶり(八戸市) 出演者数: 1,000名 来場者数: 362,000名
- ・みやこ郷土芸能祭(宮古市) 出演者数: 62名 来場者数: 219名



- ・階上町南部芸能発表会(階上町) 出演者数:100名 来場者数:240名
- ・三陸ブルーラインプロジェクト大船渡(みんなのしるし合同会社) 参加者数:35名 来場者数:2,970名



②パンフレット・レポート製作

芸能情報を中心に、文化・宿泊施設やアート情報をまとめた南回りの芸能観光パンフレット(山田町から陸前高田市まで カード型)やツアーレポートをまとめたタブロイド紙を作成。

(2). 観光ツアー・モデルツアー作成

本芸術祭および三陸地域の芸能催事を軸としたモデルコースの造成及び観光ツアーを実施。

期間:2023年9月～11月

※三陸国際芸術祭&三陸・大船渡まるごと満喫ツアー(2023.10.7(土)～10(火))

※津軽石郷土芸能祭と、三陸鉄道 三陸の旨いもんツアー(2023.11.25(土)～26(日))

※北三陸の「若き芸能者と出会う旅」モデルコース(2023.9.22(金)～24(日))

■担当:佐東(全体プロデューサー) ■現地制作:葛谷・岡田、(岩手事務所)

■ディレクターおよび担当事務局

三陸芸能大発見サミット 前川十之朗(みんなのしるし合同会社)大船渡

三陸のだむら未来芸能祭 小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会)東京

三陸芸能彩 LINK 坂田雄平(いわてアートサポートセンター)盛岡

■三陸国際芸術推進事業(三陸国際芸術推進委員会に対して)

令和5年度日本博主催・共催型プロジェクト ■全体予算:42,571,000円

コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール 2023 ～これからの社会を、ダンスとともに～

＜経過・趣旨＞ 本スクールは、コミュニティダンス・ファシリテーターを国内で養成することを目的に、2014 年にコミュニティダンスの先進国・イギリスから講師を招いて始まり、2018 年まで年 1 回開校してきました。2019 年以降は、コロナ禍でイギリスからの招聘が困難になり、2021 年度に日本人の講師とプログラム内容について検討を重ね、城崎国際アートセンターにて日本版にリニューアルし開校しました。以降は 2 年に 1 回のペースで開校する事となり、2023 年度は滋賀県の合宿施設で行いました。これまでに、のべ 200 名近い方々が参加しています。

2023 年度は入門・応用コースのほか、スキルアップコースとコーディネーターコースを新設。他にセッションの一部をオンラインで公開する公開プログラムを実施しました。



＜実施概要＞

【日程】2024 年 3 月 14 日(木)～3 月 17 日(日)

【会場】滋賀シアターアーツトレーニングセンター

【講師】入門コース: 隅地菜歩、阿比留修一

応用コース: マニシア、アオキ裕キ

スキルアップコース: 稲田奈緒美、北村成美 コーディネーターコース: 中西麻友、佐東範一

【公開プログラム(セッションの一部をオンラインで公開)】

I プレゼンテーション①「日本のコミュニティダンス最前線! 2023」

プレゼンター: 新井英夫、北村成美、マニシア、アオキ裕キ、セレノグラフィカ(隅地菜歩・阿比留修一)、中西麻友(NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長)

II プレゼンテーション②「ダンスの可能性を広げる、各地の試み」

プレゼンター: 可児市文化創造センターala「オーケストラで踊ろう!」(岐阜県可児市)／医療法人社団オレンジほっちのロッヂ(長野県軽井沢町)／TACT(TAKasaki Community Theater)(群馬県高崎市)／あそびおどり企画オドリクリエーション(福岡県福岡市)／AAPA『からだの対話の場をひらく』(東京都足立区)／おやこダンスカンパニー チチカカコ(京都府、滋賀県)／DANCE BOX「こんにちは、共生社会(ぐちゃぐちゃのゴチャゴチャ)」(兵庫県神戸市・新長田)

III 公開勉強会「医療と介護の現場で、“生老病死”をケアするダンスの試み」

講師: 新井英夫(体奏家・ダンスアーティスト)、マニシア(ダンスアーティスト・ダンスムーヴメントセラピスト)
ゲスト: 北山真樹(作業療法士)、密山要用(医師・コミュニティドクター)、濱田裕子(NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト代表／第一薬科大学看護学部 教授)

【受講料】〔入門〕〔スキルアップ〕〔コーディネーター〕 60,000 円／〔応用〕 50,000 円 * JCDN アクティブ会員 50,000 円

【公開プログラム参加費】1 プログラム 2000 円／3 プログラムセット券 5,000 円

【受講生数】〔入門〕 22 名 〔応用〕 5 名 〔スキルアップ〕 2 名

〔コーディネーター〕 7 名 計 36 名

【オンライン公開プログラム】参加者数: 73 名(アーカイヴ視聴含む)

【事務局・運営】神前沙織、吉福敦子、鈴木英理子 【インターン】前田紗織、季雅蓉

<実施成果・課題>

2023 は、入門コース 22 名、応用コース 5 名、スキルアップコース 2 名、コーディネーターコース 7 名、合計 36 名の受講生が全国から集まり、14 名の講師 & スタッフと濃密な 4 日間を過ごしました。特に入門コースは、まだファシリテーターとしての活動を始める前の方も受講対象にしていることから、定数を超える応募があり、改めてニーズの高さを感じました。年齢幅は 20 歳～67 歳まで、アーティスト・振付家・ダンサー、高校や小学校の教員、インストラクター、整体師、地域おこし協力隊、介護職、社会福祉士、俳優、学生、劇場制作者、公務員、舞踊の NPO 法人職員など、幅広い職種の方が参加されました。

また、公開プログラムのオンライン参加者はアーカイヴ視聴も含めて 73 名にのぼり、やはり関心の高さを感じます。

受講生それぞれが 4 日間で得たもの、学んだことのレポートによると、ダンスとの向き合い方を再確認したという内容が多く、お一人お一人が気づいたこと発見した事の大きさが伺えます。

今後は、個々のどんな小さな活動も含めて、誰の目にも見えるように「コミュニティダンスのススメ」サイトを活用しつつ、ダンスの力を社会に活かす活動が日本の中でもっともっと身近に増えていくよう、働きかけ続けていきたいと思います。また、入門コース生や過去の修了生には、2 年後に応用コースやスキルアップコースを受講しに戻ってきてもらえるよう、終了後の熱い気持ちを持続し続けられる仕組みも必要だろうと感じています。



★2014 年より、受講生によるレポートを提出いただき、以下のサイトにアーカイヴしています。

この度、JCDN 会員に限って公開します。ぜひご覧ください。

サイトアドレス <http://jcdnschool.blog.fc2.com/>（閲覧パスワード:jcdnschool）

■担当:神前・佐東

■予算:250 万円(受講料+オンライン参加費)

こちかぜ(東風)キッズダンス

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2023—

＜経過＞ 2014年6月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域(東山三条)の子どもたちとのコミュニティダンス・プロジェクト。活動3年目の後半から、公募で集まった子どもたちと三条学童保育所の子どもたちが一緒にワークショップに参加するようになり、継続10年目となりました。

とても元気でエネルギーあふれる東山の子どもたちは、“東からふく風”＝東風(こちかぜ)キッズと名づけられ、ダンスはもちろん、衣裳やチラシの素材など、アーティストのナビゲートのもと、子どもたち自身のアイデアを活かして自由にのびのびと創造する場になっています。



＜内容・成果＞ 本事業は実施10年目を迎えました。10年間のダンスの活動を通して、変化と交流が生まれつつあります。東山三条の子どもにとって、活動拠点とする東山いきいき市民活動センターは生活の場の近くにある施設です。地域から若い世代が減少する中、センター長からは「こちかぜキッズダンスの子どもたちが恒例の秋のまちづくりフェスタに出演してくれるのは地域の活力にとって大切な要素。今年も住民が楽しみに観にきてくれていた。継続してほしい。」と言われるほど定着しています。

継続して参加している三条学童保育所の子どもたちはダンスを通じた表現活動をすることによって自分らしい自由な表現を見つけ、一年で自信をつけ、こちかぜキッズダンスを居場所として成長しています。また公募で参加している子どもたち(初対面の場合も多い)とも一緒に活動することで、他者を受け入れ認め合い、居心地のいい空気を作り、互いを気遣い、協力し合う関係をワークショップの時間内で築くことができるようになっています。

次年度11年目からは、高校1年生になる2名のOBキッズをアシスタントに抜擢し継続することが決まりました。

＜実施概要＞

【メインプログラム(公募ワークショップ)】(2023-2024)

期間: 4月22日～3月28日(計18回)

＜春編＞「まず、楽しむことから始めよう！」4月22日—5月18日(3回)

＜夏秋編＞「キッラキラのダンスをみんなで！」8月9日—11月5日(11回)

＜冬編＞「さあ！みんなでチャレンジ！」12月23日—2024年3月28日(4回)

※ゲスト: 納谷衣美(ダンス x こえ)、阪本麻紀(ダンス x えんげき)

ワークショップ会場: 京都市東山いきいき市民活動センター 多目的ホール他

対象: 京都市三条学童保育所の小学生(1～4年生)、近所の子どもたち

公募参加者/4歳から小学6年生(経験問わず、だれでもOK!) 参加者数: 延べ194人

【アウトリーチプログラム】

・京都市三条保育所 3月22日 3-5才 27名/・野菊荘(母子生活支援施設)3月27日 1-6年生 6名

【PHOTO DOCUMENT & 報告書】写真と言葉による記録集を製作予定

©2024 プロジェクトメンバー

【ワークショップナビゲート・作・演出】セレノグラフィカ(隅地菜歩・阿比留修一)

【サポート・アシスタント】大谷悠、内田結花、千代その子 [写真記録] 草本利枝



■担当: 神前・黒田 ■令和5年度京都府地域交響プロジェクト交付金 令和5年度子どもゆめ基金助成活動
■予算: 1,480,000円

ウェブサイト・コミュニティダンスのすすめ

— Community Dance in Japan on web

日本のコミュニティダンスのあらゆる情報を集約する、情報ポータルサイト。

コミュニティダンスに関わる個人・団体であれば誰でも登録でき、自身の活動をこのサイトで告知することができます。コミュニティダンスの場を求めている方や、どこにどのような人材がいるか知りたい方のための情報検索、研究者の論文掲載など、コミュニティダンスに関わる方々の情報を集約し発信していきます。2022 年 4 月 25 日にリニューアルオープン、多くの方に活用していただいています。

<http://cdj.jcdn.org/>

The screenshot displays the homepage of the Community Dance Japan on Web website. The header includes the site's name and a search bar. The main content area features several articles with images and text, such as 'ネットワーキングイベント2019ボーダーを超える' and '宝ヶ池・子どもの楽園で、踊ろう！ダンスワークショップ＆ショーイング'. The right sidebar contains navigation menus for 'Home', '記事一覧', 'About', 'Event', 'Archive', 'Interview', and a 'Registration Form' button. The footer lists the site's purpose and contact information.

<リニューアル後の主な機能について>

- ・コミュニティダンスに関わる個人・団体であれば誰でも登録でき、自身の活動を告知することができます。
- ・登録者(掲載者)は初回のみ ID と PW を入手いただく必要がありますが、その後は同じ ID と PW で公演やワークショップの登録を行えます。また、プロフィールやロゴ等を登録可能なほか、「この記事を書いた人」の「最近の記事」という表示で、登録者別の記事閲覧ができます。
- ・全ての記事は、地域別、活動分野別、公演またはワークショップなどの種別等での検索ができます。
- ・登録者(掲載者)と別に、ファシリテーターを登録する機能があり、サイト訪問者が、ファシリテーター一覧やファシリテーターごとの記事の検索ができます。
- ・「コミュニティダンスのススメ」LINE アカウントと連動した情報告知機能があります。
- ・他に、インタビュー、事業報告書、海外の事例(調査報告レポート)、研究論文 などの記事投稿も可能です。

■担当 神前 ■サイト製作(リニューアル): creative unit DOR デザイン: 西谷デザイン ■イラスト: 梢夏子

4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

令和5年度文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 ーコミュニケーション能力向上事業ー」＜NPO 法人提案型＞

からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストが学校へ出向いて行うワークショップをコーディネート。令和5年(2023年)度は、前年度に同じ大阪府堺市・沖縄県・滋賀県の3地域 計10校で実施しました。

＜実施内容＞実施順

実施日	地域	実施校 (対象児童 生徒数)	◎講師 ○補助者 ■担当コーディネーター	実施内容、児童生徒・先生の反応や感想等
9月5日・ 6日、12 日	滋 賀 県 大 津 市	大津市立 唐崎小学 校 (1年生4 クラス146 名)	◎野村香子・ 合田有紀 ■佐東	・熱中症予防のために体育館から、冷房がある各教室で実施したことが、子供たちの集中力につながった。 ・実際に動物の映像を見せて、みんなでそれぞれの特徴などを話した後に、動いたことによって、より具体的なイメージを持って、動けるようになった。 ・その動きをどのようにダンスにしていけるのか、もっと時間があれば、より発展させられたであろう。しかし実際に動物園にもいくので、ダンスフェスに向けて、今後どのように動物になりきるかなどの話を講師から行った。 ・この後は先生方にバトンタッチしますと話し、先生方も頑張りますと答えてくれた。
10月18 日～20日	沖 縄 県 宮 古 島	宮古島市 立西辺中 学校 (1年～3 年生39 名)	◎マニシア ○DAI(ジャン ベ演奏) ■神前	・動きたくても動けない思春期の中学生であること、離島の小規模校で小さいころからお互いをよく知っている生徒と先生同士というコミュニティで、苦手な「表現」をどう引き出していくかということと、協力しあってショーイングを形にしていける過程を体験してもらった。 ・初めはほとんど動かない様子の生徒も、率先して動く活発な生徒を見ながら少しずつ変化していった。 ・太鼓のリズムが、生徒の自発性(むりやり踊らされるのではなく、自発的な動き)を誘発するのに最適だった。 ・普段から協力し合い素直に活動できる生徒たちで、3日の間にたくさんのワークを体験し、それらをつなぎ合わせてショーイングを行い、全校教員や事務員さんに見ていただいた。
10月23 日～25日	沖 縄 県 う る ま 市	うるま市立 与那城小 学校 (3年生2 クラス74 名)	◎赤松美智 代・丸山陽子 ■神前	・第1、2回までに行行ったワーク「指揮者」、「宇宙人が○○した」、「からだつなぎ」、「宇宙ゴーランド」を順番につなぎ、一つのダンス作品として発表することができた。 ・発表を無事にやり遂げることができ、中には感動で涙を流す教員もいた。 ・児童からは「勇気が出た」、「友達ともっと仲良くなれた」、「声を出さないと喋れることがわかった」、「ダンスの楽しさがわかった」、「ダンスを(自分でも)つくりたい」など、自分で表現することの楽しさを新たに実感したような感想が多数述べられた。

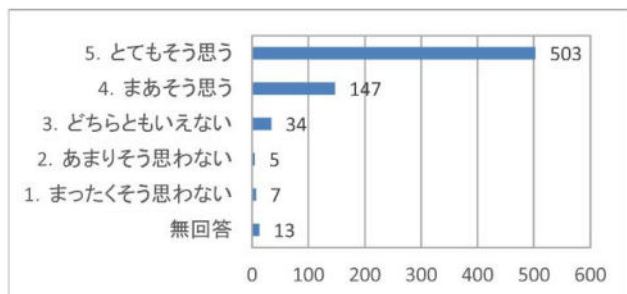
11月20日～22日	滋賀県長浜市	滋賀県立長浜養護学校 (中学部1年～3年生 7クラス 40名)	◎北村成美 ■佐東	・最後の発表は奇跡的な時間だったと、先生も講師のアーティストもコーディネーターも思えた。いままでばらばらに思い思いに動いていたり、突然叫びだしたりしていた子供たちが、本当にみんなひとつになって、踊っていた。見られた他の先生たちも、こんなに全員でひとつになったのは初めてのことで驚いていた。 ・担当の田中先生からは、今後もこのダンスの授業を継続していきたいと、とても熱のこもった思いを語ってくれた。
11月27日～29日	沖縄県南城市	南城市立知念中学校 (1年生 2クラス 42名)	◎合田緑 ○根岸由季、金城智子、國仲正也 ■神前	・他人を気にしすぎて自分の振りで能動的に踊ることに苦戦した生徒もいたが、最後は無事に教員の前でダンスを発表することができた。個性が光った子供たちも多く、先生も達成感を感じていた。 ・「人前でダンスをする恥ずかしさより、楽しさが勝った」という生徒からの感想もあり、ダンスでのコミュニケーションを通して、個々の個性を発見し合うような機会となった。 ・学校現場において体育の授業が他の教科よりも重要視されなくなっている状況の中で、その人にしかできない表現を探っていく小テンポラリーダンスによって、子供たち一人ひとりに宿っている創造力を可視化することの大切さを、本事業を通して確認し合った。
12月1日、8日、15日	大阪府堺市	堺市立原山ひかり小学校 (1年生 2クラス 55人、支援級1年～6年生 23人)	◎小倉笑 ○後藤禎稀、渡邊桃子 ■神前・黒田	各クラス1コマ45分 x3回実施。冒頭でダンスには正解や不正解がないことを伝えてスタート。事前に大人しいと聞いていた1組だったが終始イキイキと活発に活動しており、杞憂となった。総じて子どもたちは講師の言葉がけに反応がよく脈やかだが説明を良く聞き、良く見ており終始楽しい雰囲気で行進した。途中、思うように動けず悔し涙を流す児童もいたが2回目、3回目を実施するに従って積極的に参加するようになっており、慣れることに時間がかかる児童にとっても継続して複数回実施することの意義を感じる。 支援級は事前に聞いていた通り、一緒に活動しづらい児童もいたが、部屋から出ていくことなく同じ空間で過ごすことができたことは自分なりに楽しんでいったということであり、同じことをやらずとも各々の楽しみ方があって良いということを教えられる。教員からは、このカリキュラムは自由な発想をどう引き出したらいいのかを実践するものであり、外部講師による授業をその後につなげていきたいと、自らの学びの場としていただけたようだった。
12月5日、12日、20日	大阪府堺市	堺市立土師小学校 (5年・6年生 4クラス 130名)	◎野村香子・合田有紀 ○小野下未来 ■黒田	1回目の終了直前に、最終回で発表会をやることを伝えるとどよめきが起った。ステージに立ち、スポットライトを浴びるという緊張感と高揚感を体験してほしいという講師の提案に教員も協力的。ワークは発表に向けて展開し「クロスフロア」「紙のワーク」というシンプルな方法ながら、様々な動きを導き出すために時間をかけて丁寧に工夫して行った。5年1組&6年1組の発表会では自然に「先生コール」が起き、担任教員もステージで踊り、最後には男児7名が自然に舞台に駆け上がって踊り、児童らのノリの良さと勇氣に拍手が起きていた。このような奇跡のようなハプニングを目撃できるのは醍醐味である。この発表は本プログラムの良い目標となり、児童らの不安が楽しみに変わった瞬間でもあった。教員からはこのような表現運動は低学年からやるべきだという意見があがった。

12月6日、12月13日・14日	大阪府堺市	堺市立東陶器小学校 (2年生 4クラス 125名)	◎田中幸恵 ○西岡樹里、森脇康貴 ■黒田	初日に講師から「怪我をしないこと」「自分の身体を観察しよう」との声がけからプログラムが始まった。1限目から4限目まで1コマずつ4つの性質の異なるクラスを連続でファシリテーションするのは講師にとっても負担は軽くなかったと拝察したが、講師の明解な言葉がけとよどみないファシリテーションによって45分のワークが細部にまで全員に行き渡っていた。要所要所で聞いた児童の感想からも反応の良さが伺えた。学校側はコミュニケーション能力の向上を目標にしており、教員からは今回のワークを経て自分や他者を感じ、空間を感じながら動いていたことや、正解や不正解がないので自分で前向きな姿勢で動いていたことが自信や協調生につながっていくことを期待する声があがった。
1月16日・17日、23日	大阪府堺市	堺市立深阪小学校 (2年・4年生 各2クラス 82名)	◎隅地菜歩・阿比留修一 ■黒田	最初は気恥ずかしさもあり2年生と4年生が分かれてしまいややぎこちない雰囲気があった。そのため2回目から最初の集合で2年生と4年生に交互に座ってもらい、自然な混ざり合いができるように工夫することでだんだん固い空気が解きほぐれていった。ペアワークでは2年生から4年生に積極的に声をかけ引っ張っている場面もあった。そのような様子から、「目に見えない内面の育ちが見えた」「フリースタイルで動く場面ではお互いに認め合っていたようだ。2年と4年で混ざりあえたことで役割意識が生まれていた」「異学年交流の大切さを感じた。」といった声が教員からあがった。教員にとってもこの経験を今後どう繋げていけばいいかを考える機会となったようだ。
1月30日、2月6日、13日	滋賀県栗東市	栗東市立治田東小学校 (1年生 2クラス 58名)	◎鈴木英理子 ○後藤禎稀、渡邊桃子 ■黒田	・1年生2クラスを3週それぞれ90分、80分、45分ずつ実施。 ・「自分の身体を知る」「他人の身体を知る」「自分の身体は自分で守る」「まずやってみる」という4つの大切にしてほしいことを毎回講師から児童に伝えた。大人しい児童が多いが集中度が高く、講師の言葉をよく聞きよくチャレンジしており、内なる積極性が感じられた。 ・児童が主体的に発言してくれるようになるなど、普段の教室での姿勢に良い影響が出ているのかもしれないと1組担任から報告あり。人との距離感をとることや思いを伝え合うことに課題があったが、ワークを通して課題をクリアできたと感じると2組担任から喜びの声があがり、この体験授業を通して児童の日常の身体やこころに変化が生まれていることが感じられた。

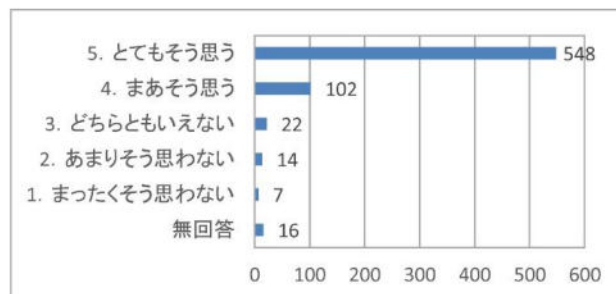
【児童アンケート】 回収 709枚（男343名、女364名、無回答2名/合計10校中回収できたもの）

質問 ダンスのワークショップに参加してみて、どうでしたか？

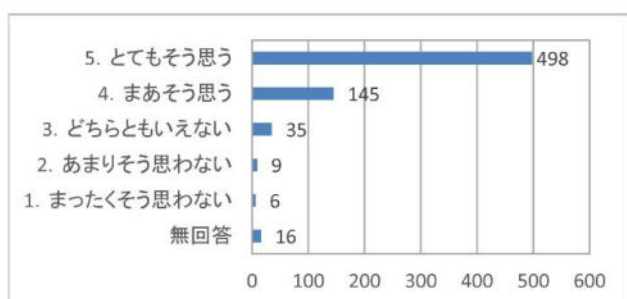
1)満足しましたか？



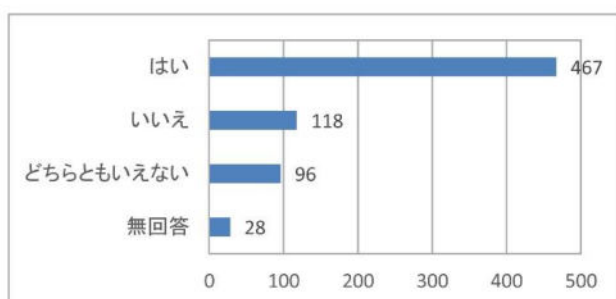
2)楽しかったですか？



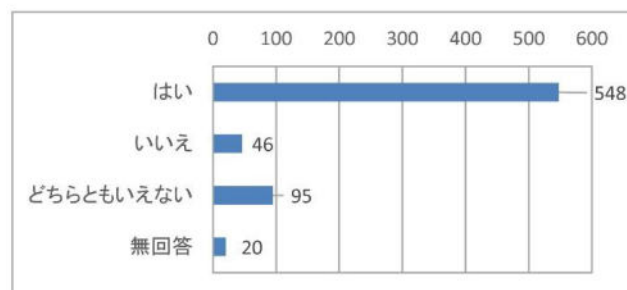
3)説明はわかりやすかったですか？



4)いつもと違う友達の様子を見つけましたか？



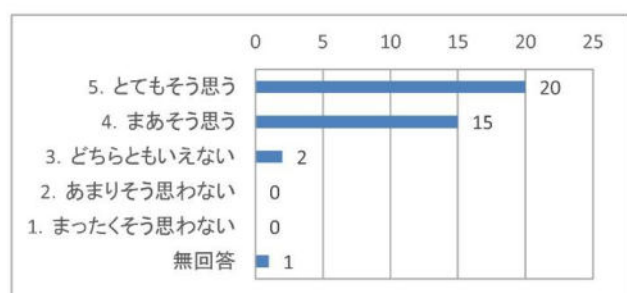
5)また参加してみたいですか？



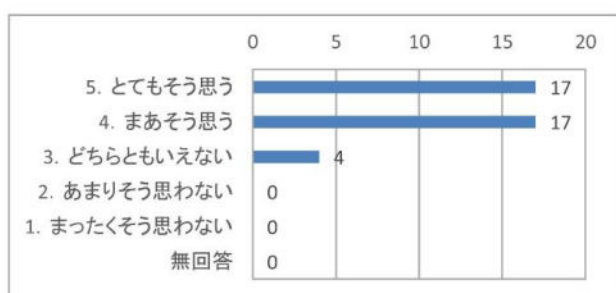
【教員アンケート】 回収 38枚（計10校）

質問① 児童の様子について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

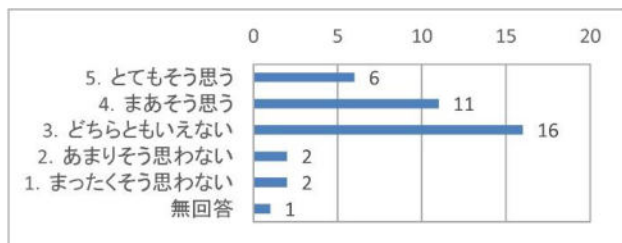
1)子供たちの豊かな自己表現がみられた。



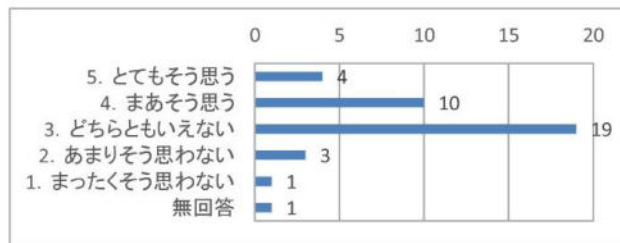
2)普段に比べて、子どもたちが自発的に参加していた。



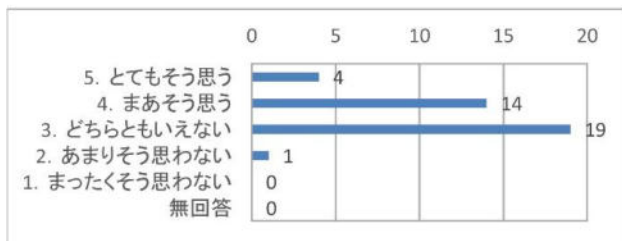
3)子供たちが、自分の行動や発言に自信を持つようになった。



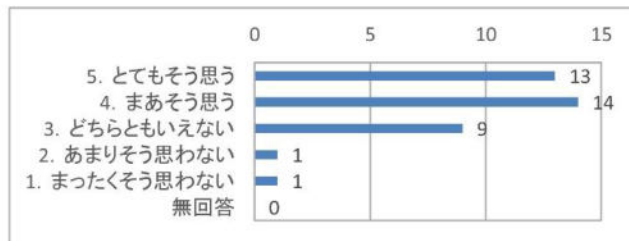
4)クラスの中で、子どもたちの関係性が変化した。



5)以前より協調性が生まれた。

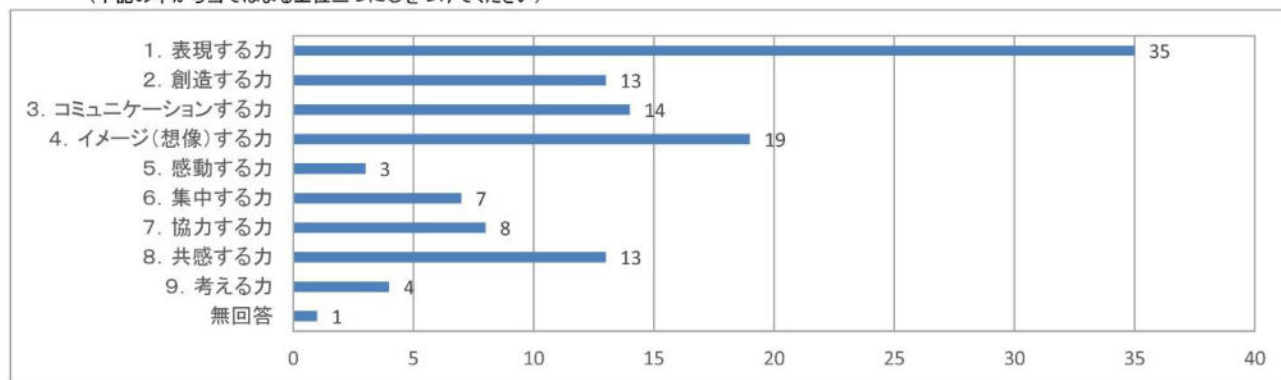


6)今まで知らなかった友達の良さや特徴を発見した。



質問② このワークショップが、児童生徒のどのような能力を育むことに効果が高いと思いましたか？

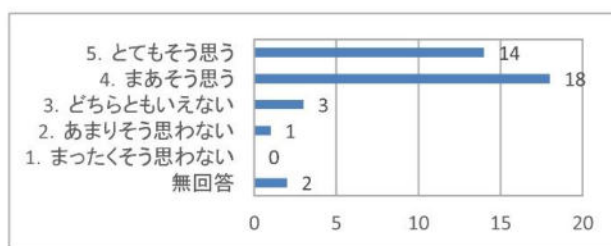
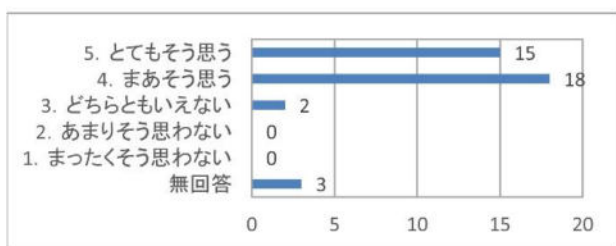
(下記の中から当てはまる上位三つに○をつけてください)



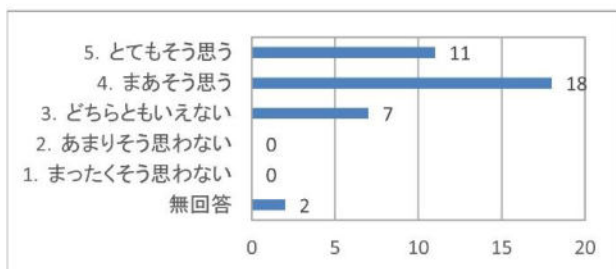
質問③ 先生ご自身について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

1)ダンスアーティストの考えやワークショップ方法を知ること、
普段の授業に活かすためのヒントを得ることができた。

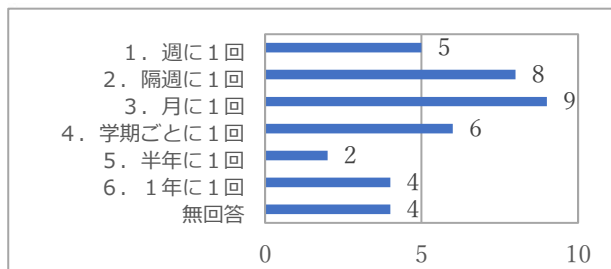
2)いままで知らなかった子供たちの新たな面を発見した。



3)今後のクラス運営に役に立つことを得た。



4)どのくらいの頻度で行えば定着すると思いますか。



■コーディネーター: 神前・黒田・佐東

■令和5年度文化芸術による子供育成推進事業(コミュニケーション能力向上事業)(文化庁)

■予算: 460万円

京都府文化を未来に伝える次世代育み事業 「学校・アート・出会いプロジェクト」

「学校・アート・出会いプロジェクト」は、京都府内の児童生徒に対し、質の高い文化・芸術を体感する機会を提供することにより、豊かな心を育成するとともに、京都の文化・芸術の振興と次世代への継承を図ることを目的として実施されている。JCDN は体験プログラム(表現力・創造力・コミュニケーション力を高めるための創作ダンス)と鑑賞プログラムを登録していて、R5 年度は下記 1 校から体験プログラムに応募があり実施することとなった。

文化を未来に伝える次世代育み事業(R6 年度より文化の心次世代継承事業) <https://jisedai.kyotohoop.jp/>

【日時】 7 月 10 日、9 月 5 日、9 月 12 日 3 年生、4 年生各 3 回 (1 回約 90 分)

【対象】 木津川市立加茂小学校 3、4 年生 84 名

【アーティスト】 東野祥子



<成果と課題>

学校からの実施希望調書には「自分のからだを使って表現する楽しさを知り、表現力や創造力、コミュニケーション力を高めたい」ということと「10 月 7 日の運動会で行う表現運動につながるダンスを子どもたちと共につくりたい」という記述があった。担当教員にヒアリングしたところ「ダンスの基礎を教えてもらい、運動会につなげたい。運動会では自分たちでダンスをつくりたい。ダンスを上手く踊るというより一人ひとりの表現力、コミュニケーション力を高めることが目的。教えてもらったことをベースに自分たちで好きな曲で自主的にダンスをつくりたいので、踊りをつくっていくプロセスを学ぶ機会にしたい。」とのことだった。講師の東野さんからは、1 回目は創作の手がかりになるようなワークを行ってダンスに慣れてもらい、2 回目でテーマやキーワードを決めて動きをつくり少しずつ創作をはじめ、3 回目でショーイングをする、というステップの提案があり、その構成に沿って体験授業が行われた。

限られた実施回数ではあったが経験値の高い講師の牽引力、そして先生方の積極的で能動的なご協力のもと実施することができた。特に、1 回目と2 回目の間に一か月以上の間隔が空いたが、先生が子どもたちにダンステーマを考える時間を作るなど、子どもたちの興味と集中力を切らさない努力をしてくださっていたことで夏休み明けの2 回目、3 回目の授業への導入がスムーズになった。また、3 回のワークショップで完成形とするのではなく、体育祭までの期間も自分達で練習を重ね、入退場の方法を自分たちで考えるなど随所に工夫を加味しており、本番の体育祭ではグラウンドいっぱいに身体を大きく使ってのびのびと楽しく踊っている姿が印象的だった。

■コーディネーター: 黒田・神前 ■予算: 34 万

5. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取り組み

「創造的なダンスによる、子どもはぐくみプロジェクト」

(旧 「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」)

本事業では、何かしらの理由で創造的なダンスの場に出向くことが難しい子どもたちがいる場所へ体験活動の場を拡げ、子どもたちの成長の一助とすることを目的としている。2023 年度は予算の確保および運営体制が整わず、実施を見送った。代わりに「こちかぜキッズダンス」事業のアウトリーチプログラムとして 1 日、これまで継続して訪れていた母子生活支援施設にワークショップに赴いた。

6. その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・2023 年度公共ホール現代ダンス活性化事業 コーディネーター(神前)

担当地域:(8月)京都市 A プログラム@京都芸術センター (11月)千葉縣市川市 A プログラム@市川市文化会館

・2023 年度 (財)地域創造調査研究部門委員(アウトリーチに関する研究調査)(神前)

II. 会 員 部 門

1. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

JCDN 会員サービス等

<JCDN 会員の種類と対象>

①アクティブ会員(個人/団体/U25) 個人:一口 5,000 円(U25 3,000 円)／団体:一口 10,000 円

対象:JCDN の目的に賛同し、活動を推進することを目指すアーティスト・プロデューサー・評論家・研究者・ライター・スペース・ホール・美術館・企業・財団・自治体・大学・NPO などの個人・団体
※法人格を持たないカンパニー等は個人で入会可。

②サポート会員(個人/団体) 個人:一口 10,000 円／団体:一口 20,000 円

対象:JCDN の事業を賛助・支援する個人・団体

③ダンスコミュニティ会員(個人のみ) 個人:一口 3,000 円

対象:JCDN の活動に共感する個人。ダンスの情報が得られることによって、ダンスを身近なものとし、楽しむための機会を増やします。

<2023 年度 JCDN 会員数> 合計 117 名/組

【現在有効期限会員】 アクティブ個人 57 名、団体 20 組/サポート個人 2 名、団体 1 組/ダンスコミュニティ個人 12 名

【休会会員】(最長 2 年間) アクティブ個人 12 名、団体 3 組/ダンスコミュニティ個人 1 名

※そのほか、JCDN 役員・スタッフ等(過去も含む) 9 組

JCDN 会員サービスについて

アクティブ・サポート・ダンスコミュニティ会員それぞれに、ダンスを社会に広めるための様々な支援サービスを行っています。特に、JCDN アクティブ会員対象のサービスはサポートを充実させています。

	アクティブ	サポート	コミュニティ
オンライン ダンス・ミーティングの場のセッティング	○	○	
オンライン 月 1 ダンスミーティング	○	○	
JCDN メールマガジンの配信 (月 1 回)	○	○	○
JCDN メールマガジンへの投稿 (月 1 回)	○	○	
公演・ワークショップ情報の送付 (DM)	○	○	○
JCDN 主催事業・関連事業の割引、及び会員主催のダンス公演等の割引	○	○	○
JCDN 総会 (年 1 回) への参加資格	○	○	
主催事業の報告書等の送付	○	○	○
JCDNweb「MEMBERS」ページでの活動紹介★	○	○	
JCDNweb「NEWS」ページでの公演、ワークショップ等の活動情報掲載 ★	○	○	
サポート会員からの企画や JCDN に対しての提案などを話し合う機会を設ける		○	
DM 同封サービス (無料/年 2-3 回程度/不定期) ★	○	○	
動画配信サイト「DANCE DOOR」へ 2 本/年の無料登録	○		

(★=詳細は、会員更新・新規申込時にご案内しておりますが、随時、遠慮なくご連絡ください。)

■会員専用メールアドレス : jcdnmembership@yahoo.co.jp ■担当: 西田/黒田